

令和7年度病害虫防除技術情報第16号

令和7年12月24日
三重県病害虫防除所

スクミリンゴガイ発生ほ場では、冬期の耕うんで越冬量を減らしましょう。

1 対象作物:水稻

2 対象病害虫名:スクミリンゴガイ

3 発生状況

- (1) 巡回調査(6月第1から2週)では、スクミリンゴガイの発生ほ場率は15.6%と、過去10か年で最も高くなりました(過去10か年平均8.8%)。
- (2) 1か月予報(12月18日・名古屋地方気象台発表)によると、向こう1か月の気温は高いと予想されていますが、1月上旬には平年並みの気温になると見込まれます。寒さに弱いスクミリンゴガイの越冬量を減らすには好適条件となりそうです。

4 防除の注意事項

- (1) 冬期の耕うんは2回実施しましょう。
 - ・1回目は貝を物理的に破碎します。田面が硬いときに、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を早くして、土壤を細かく碎くようにします。深さ6cm程度の浅耕が効果は高いです。
 - ・2回目は土中の貝を寒さにさらします。厳冬期(1から2月)に、慣行の深さで耕して、作土深の確保に努めましょう。
- (2) 水路の泥上げをして越冬貝を減らしましょう。
- (3) 春以降の薬剤散布や浅水管理等とセットで体系的に防除を行うことで一層効果を高めることができます。
- (4) レーザーレベラーなどを用いて田面を均平にすると、移植後の浅水管理の効果が高くなります。
- (5) スクミリンゴガイ防除に関するマニュアルが、以下に掲載されていますので参考にしてください。



(三重県版スクミリンゴガイ防除マニュアル [220329-14.pdf](#))



(スクミリンゴガイの防除支援マニュアル)

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。